こどものための鑑賞ガイド

李行簡展

―新しい中国画への誘い―

令和3年1月16日（土）～3月14日（日）

「大江東去図」1979年

わたしたちといっしょに
作品を見ていきましょう！

植野記念美術館
安田館長

ちーたん

丹波市立植野記念美術館

順路１　ポイント１「新しい技術、積墨法（せきぼくほう）を知ろう」

ち一たん、この展示室の作品を見て「何色」の絵が多いと思う？

う～ん、、、黒・みどり、みずいろ、あと茶色。暗くて濃い色が多いと思うよ。

そうだね。暗くて濃い感じがするのは、墨を何重にも重ねて色をつけているからなんだ。墨は色が混ざりやすくて、重ねて塗るのはとても難しいんだ。

李行簡の絵は、暗い中にもきれいなみどりや青色があるね。どっしりとした自然の雰囲気がよく表れているよ。

「峩眉清音閣秀色」1979 年

積墨法は李行簡の先生である李可染（りかせん）が作り出した技法です。

ポイント２「画賛（がさん）」ってなんだ？

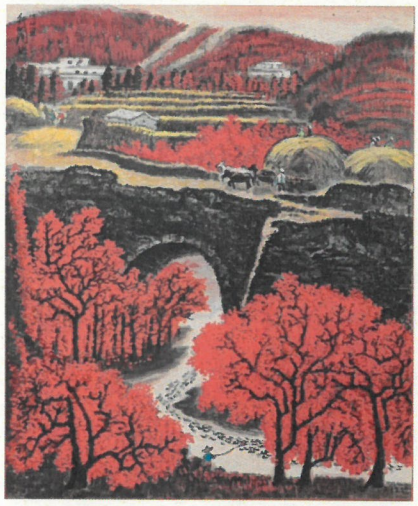
「桂林図」1987 年

安田館長、絵の中に文字がいっぱい書いてあるのは何なの？

よく気づいたね。それは「画賛（がさん）」というよ。作家の感動した気持ちなどが、詩や歌として書かれています。短いものから長いものまであり、位置など書き方も工夫されています。

画賛が入ると作品がより一層素敵になるね。作品のどこにどんな風に画賛が描かれているか確かめてみよう！

順路２　ポイント３「どこから見て描いたのかな？」



「盛秋図」1997 年

㋐高い所から

㋑同じ高さから

㋒低い所から

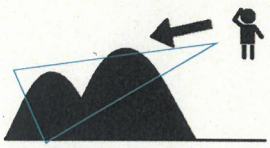
ちーたん、左の作品は
ア・イ・ウ の、どの高さ
から見て描いたと思う？

う～ん、むずかしいなぁ。。。

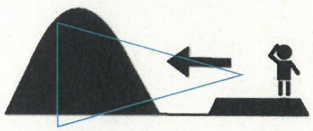
正解は・・・ア・イ・ウ全部です！

え～！ずるい～！

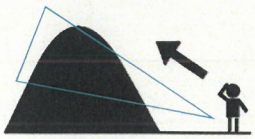
李行簡の不思議な構図（三遠法）



㋐深遠・・・高い所から低い所を見下ろす。



㋑平遠・・・まっすぐ平坦な視線で遠くを見る。



㋒高遠・・・低い所から高い所を見上げる。

上から、下から、まっすぐ、、、全部を一つの絵に
しちゃうなんて、李行簡はすごいね。
ぼくもチャレンジしてみようかなぁ！

順路２　ポイント４「色　鮮やか」

ところで、ちーたん。
この展示室の作品はどんな色が多いかな？

う～ん。赤や黄色、、、
明るい感じがするよ。

「秋風颯々」2006 年

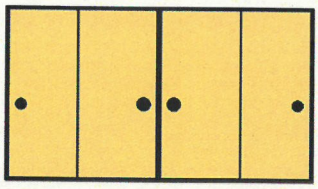
そうだね。順路１と比べて、色鮮やかな感じがするね。
ここには少数民族の暮らしが描かれた作品が多くあり、色鮮やかな風景は彼らの豊かな生活を想像させるね。

荷物を背負って歩いている人や、畑で作物を収穫している人もいるね。
あれ～なんだかこの絵、さっき見たような…

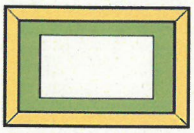
きっと李行簡が気に入った景色だから、何度も同じ景色を描いたんだね。その地に暮らす人々と会話をしながら生まれた李行簡の作品は、どこか暖かい感じがするね。

順路３･４　ポイント５「ふすま･びょうぶ って何だろう？」

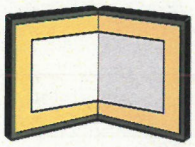
「ふすま」や「びょうぶ」を知っているかな？ふだんの生活ではあまり見なくなったかもしれません。これらに描かれた作品もあります。



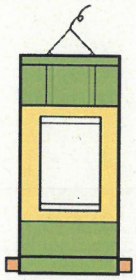
ふすま



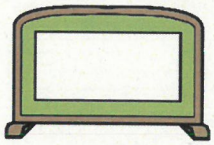
がく



びょうぶ



かけじく



ついたて

H30.植野記念美術館友の会・秋の美術館めぐりより

右の写真は李行簡美術館の展示室です。ふすまなど実際に建具として使われています。すごいね！！